

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育方針 校訓「自主・創造・連帯」のもと、「翔べよ遙か狭山生」をキャッチフレーズとして、グローバルセンスとローカルセンスを兼ね備え、高いコミュニケーション能力（リーダーシップ・フォロワーシップ）や心優しき人間性を持って、地域社会においてパートナーシップを構築しけん引する「自主創造型グローバルリーダー」を育成する。 1 学力向上と第一志望の進路実現をめざし、「チームさやま」として教職員が一丸となって、頑張る生徒を応援し課題を抱える生徒を支える学校 2 国際交流（姉妹校連携）や実践的な英語教育を通じて国際感覚・国際コミュニケーション能力を伸ばすとともに、地域連携（大阪狭山市唯一の高校）の取り組みやSDGsをテーマにした協働的探究学習を通して、グローバルセンスとローカルセンスを高める教育を実践する学校 3 学校行事やクラブ活動など協働的な活動を通して、自尊感情を育み、自主性を伸ばし、コミュニケーション能力（リーダーシップとフォロワーシップ）と心優しき人間性を高める学校

2 中期的目標

○今年度より3年間、「新時代に対応した高等学校改革推進事業」推進校として地域社会に貢献する国際的知見をもつリーダー育成を進めていく。 Ⅰ さらなる学力向上と進路保障 （Ⅰ）「主体的・対話的で深い学び」をめざし、「思考力・判断力・表現力」・「主体的に学びに向き合う力」を育成する授業づくりに取り組む。 ア 調べ学習・グループワークを取り入れ、発表、議論・パフォーマンス課題を通じて「思考力・判断力・表現力」を向上させるとともに、「観点別学習評価」についてさらに研究を進める。「観点別学習評価」については、教科で単元計画・評価計画を策定し、ループリックなどを共有しながらチームで取り組む。 ※単元の逆向き設計により、本質的な問いを設定。①思考の発芽（図書館・インターネットの活用）、②思考の見える化（学習支援ソフト・グループワーク）、思考のゆさぶり（発表・議論・パフォーマンス課題）など、「思考力・判断力・表現力」を育成する授業へと転換をはかる、また、振り返りシートを共有するなど、学び方を協働的に学ぶことで「主体的に学びに向き合う力」を育成する。 イ リーディングGIGAハイスクール指定校として、1人1台端末や導入された最新型プロジェクター等のICT機器を活用し、対話的に思考を深め、学び方を協働的に学ぶ授業をめざす。1人1台端末活用のアクションプランを意識し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を進める。 （Ⅱ）第一志望を実現する進路指導を進め、個別指導、家庭学習指導の充実を図ることで、夢がかなう進路保障に結び付ける。 ア 受験用学習教材や模擬テスト、各種外部検定を活用し、3年間を通じた客観的な学力把握とデータに基づく精度の高い受験指導を行う。 イ 早朝、放課後の講習・補習及び長期休暇中の学習イベントにより「わかる・できる」を体感させる。 ウ 国公立大学・難関私立大学ゼミ（年間25回程度）を実施し、難関大学への入試に必要な力を育成する。 ※生徒向け学校教育自己診断「授業満足度」、「授業の工夫度」、「カリキュラム満足度」を令和8年度に3項目すべてにおいて88%以上をめざす。（「授業満足度 R3:82.0%、R4:89.3%、R5:88.6%、）「授業の工夫度」（R3:89.3%、R4:94.3%、R5:92.4%、）「カリキュラム満足度」（R3:86.6%、R4:87.7%、R5:89.1%、） ※進路ガイダンス/進学講習の充実を令和8年度まで85%以上の維持・向上をめざす。（R3:88.9%、R4:94.4%、R5:93.9%、） ※教職員向け学校教育自己診断「系統的な進路指導の実施」を令和8年度に80%以上の維持・向上をめざす。（R3:72.3%、R4:68.1%、R5:87.5%、） ※国公立・関関同立 合格者のべ70人以上をめざす。（R3:41人、R4:46人、R5:49人） Ⅱ キャリア教育のための環境づくり （Ⅰ）夢をえがく力、夢をかなえる力を養成し将来に向かって飛躍できるプログラムを展開する。 ア 国際交流（姉妹校連携）や実践的な英語教育を通じて国際感覚・国際コミュニケーション能力を伸ばすとともに、地域連携（大阪狭山市唯一の高校）の取り組みやSDGsをテーマにした協働的探究学習を通して、グローバルセンスとローカルセンスを高めるプログラムを展開する。 イ 将来の生き方を見据えた「進路」を決定するために必要な3年間の系統だったプログラムを展開する。 ウ 読書活動を推進する（ビブリオバトルをさらに活性化させ読書の質と量の向上を図る）。 ※生徒向け学校教育自己診断「キャリア教育満足度」を令和8年まで85%以上の維持・向上をめざす。（R3:88.9%、R4:94.4%、R5:93.9%、） （Ⅱ）互いの違いを認め合う人権尊重意識の向上に取り組む。 ア すべての生徒に、基本的人権や人権問題の認識を広め、高い人権意識を育てる。 イ 1人1台端末を活用し、情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。 ※生徒向け学校教育自己診断「人権（人権の尊重）」の肯定的評価を令和8年度まで85%以上の維持・向上をめざす。（R3:86.7%、R4:92.2%、R5:88.8%、） ※教職員向け自己診断「人権尊重に学校全体で取り組む」を令和8年度に80%以上に向上する。（R3:41.3%、R4:62.8%、R5:79.2%、） （Ⅲ）学校生活の充実に向けた体制づくりに取り組む。 ア 担任、教科、部活動等の生徒情報を集約し、SC・SSWとも連携しながら、教育相談支援委員会のコア会議を定例開催とするなど生徒支援体制を充実させる。特に、長引く感染症の影響が生徒やその家庭に与える影響やヤングケアラーの実態については、高校生活支援カードや日常生活アンケートを活用し、早期発見・把握に努め、適切な支援につなげる。 イ 自尊感情を育み、自主性を伸ばし、コミュニケーション能力（リーダーシップとフォロワーシップ）と心優しき人間性を高めるために、部活動、生徒会活動等の活性化を図るとともに、部や生徒会執行部に所属していない生徒に活躍の場を多く与える工夫をする。 ※生徒向け学校教育自己診断「学校生活満足度」令和8年度まで90%以上の維持・向上をめざす。（R3:90.5%、R4:92.9%、R5:91.5%、） 同じく「相談体制満足度」を令和8年度まで70%以上の維持・向上をめざす。（R3:70.5%、R4:78.6%、R5:78.6%、） Ⅲ 学校改革に向けての体制づくり （Ⅰ）教職員全員が参加する「チームさやま」体制を発展させる。 ア 教職員の人権意識を高め、いじめ・体罰・ハラスメント「0」を継続するために教職員研修を実施するとともに、組織的な対応を推進する。
--

府立狭山高等学校

地震・台風等の自然災害、インフルエンザ等の感染症、食物アレルギー、熱中症等、生徒の安全や健康に関する情報の共有及び対応力向上に資する教職員研修を行う。
イ コロナ禍での教職員の業務の増加をふまえ、さらなる「働き方改革」を推進し、校務の精査と教職員の負担軽減、職務の平準化を図る。
ウ 超過勤務の削減及び各種休暇の計画的取得を推進する。
(2) 学校に関わる団体（PTA、同窓会、後援会、地域行政、地域住民）との連携を強化し、広報・情報発信に取り組む。
ア 中高連携として、中学校との授業交流・クラブ交流を実施し、教育内容の充実につなげるとともに広報・情報発信に取り組む。
イ 「文化部フェスタ」「狭山カップ」等の実施により地域の中学生や市民の方々に狭山高校の魅力を発信し学校と地域の交流を深める。
※教職員向け学校教育自己診断「学校運営の勤務充実度」を令和８年度に90％以上の維持・向上をめざす。(R3：85.2%、R4：95.7%、R5：90.2%、)
※保護者向け学校教育自己診断「学校満足度」を令和８年度まで90％以上の維持・向上をめざす。(R3：90.4%、R4：90.6%、R5：90.8%、)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 7 年 1 月実施分〕	学校運営協議会からの意見																												
【1 学習指導】 生徒向けの質問項目のうち「本校の先生は教え方に様々な工夫をしていると思いますか」が 92.0% (-0.4p)、「本校の授業はあなたの期待に応えることができていると思いますか」は 86.3% (-0.3p) と、昨年度と比べると若干減少してはいるが、依然、肯定的回答が高い傾向にある。また、「本校のカリキュラムはあなたの興味、関心、適性、進路に応じた選択ができるものだと思いますか」は 90.0% (+0.1p) で、過去 5 年で最高であった昨年度をさらに上回った。（※下記一覧表）。引き続き、主体的・対話的で深い学びをめざした授業力向上を進めていきたい。 ※質問項目に「1 とてもそう思う」「2 どちらかといえばそう思う」の合計比率（単位：％） <table><tr><td>肯定的回答の比率</td><td>R 1</td><td>R 2</td><td>R 3</td><td>R 4</td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>授業の工夫</td><td>83.9</td><td>83.6</td><td>89.3</td><td>94.3</td><td>92.4</td><td>92.0</td></tr><tr><td>期待に応える授業</td><td>77.5</td><td>78.7</td><td>82.6</td><td>89.3</td><td>88.6</td><td>88.3</td></tr><tr><td>カリキュラム</td><td>77.7</td><td>81.2</td><td>86.6</td><td>87.7</td><td>89.1</td><td>90.0</td></tr></table> 【2 進路指導】 進路指導に関する質問で、「あなたは進路実現に向けて、真面目に学習に取り組んでいますか」の肯定的回答は 84.0% (-0.8p) であった。学年別では 1 年生 77.6%、2 年生 81.3%、3 年生 93.1% で、2、3 年生の経年変化を見ると、2 年生は 76.6%→81.3%、3 年生は 81.7%→84.9%→93.1% と推移している。3 年生は入学時から進路実現に向けての意識は高めであったが、2 年から 3 年に進むにつれて意識の上昇が顕著であった。引き続き意識を高めるための取り組みを実施していくことが肝要である。 【3 高校生活】 （1）高校生活の充実度及び教育相談体制 「あなたは、本校でいきいきと充実した生活ができていると思いますか」に対して 91.7% (+0.2p) の生徒が肯定的回答をした。「あなたは本校で、友好的な人間関係を築けていると思いますか」に対しては 94.5% (-1.4p) が肯定的な回答で、そのうち 59.5% が「強く思う」としている。例年 90%～95% で高位安定している。 「担任の先生以外で保健室や相談室等で、気軽に相談できる先生がいますか」の問いには 75.3% (-3.3p) の肯定的回答であった。担任に対して何でも相談できる関係はおおむね築けていると感じているが、さらに担任以外にも相談できる教員が複数いることが望ましい。今後もさまざまな教員が 1 人の生徒に関われるような教育相談体制を維持する必要がある。 （2）学校行事 本年度は、クラスマッチや遠足をはじめとした学校行事は、通常の形で実施することができた。体育祭では生徒がより主体的な活動を行うことができるような内容で実施し、保育園児との交流や保護者からの応援も復活する等、大いに盛り上がり、生徒たちも満足するものとなった。修学旅行については 2 年生が 11 月に沖縄・石垣島に 3 泊 4 日の日程で実施した。天候にも恵まれ、生徒にとって大阪では体験できない良い思い出となった。文化祭は、保護者は招待制で入場を許可し、地元の幼稚園児、小学生の訪問や、中学生とのクラブ交流も交えて盛大なものとなった。3 年生は伝統的にクラス劇をしているが、どのクラスも工夫を凝らした劇を作り上げていた。2 月の学年行事については、1 年生が大阪狭山市立体育館にて学年交流企画を実施する予定である。 （3）部活動 生徒向けの「あなたは、部活動に積極的に取り組んでいると思いますか」の質問に対して、71.0% (-3.6p) が肯定的回答であった。運動系・文化系合わせて約 80% であった加入率が徐々に減少しつつある傾向もある。対外試合や発表会を通じて多くの体験を積むことができること、高校時代の部活動でしか経験できない先輩、後輩、顧問の教員、外部指導者、他校の生徒などとの広い範囲の人間関係を学ぶことは、	肯定的回答の比率	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	授業の工夫	83.9	83.6	89.3	94.3	92.4	92.0	期待に応える授業	77.5	78.7	82.6	89.3	88.6	88.3	カリキュラム	77.7	81.2	86.6	87.7	89.1	90.0	〔第 1 回（6 月 7 日）〕 （分掌等より報告） 生徒会・クラスマッチを最初に開催しクラス作り。体育祭は有志による実行委員会で運営。文化祭にむけて動いている。一般外来者への開放に向けて検討中。土日開催を実施している学校が少なくなる中で続けていけたらと考えている。 教務・成績処理が大きく変更される 9 月から試験運用年明け移行予定。デジタル採点は昨年より開始、入試もデジタル採点になる。 保健・4、5 月で生徒向けの検診を一区切り。生徒向け応急手当て講習会実施予定。 人権・1 年生拉致問題に関する授業、生徒向け人権研修ちゃんへんさんの予定。全校向けて人権の取組みは熱心におこなっている。自分事として考える機会をもたせるようにしたい。 （委員）体育祭の有志が引っ張っているのか。 生徒会・今年で 3 回目、教員有志で編成し、部活動の生徒の協力のもと実施している。 （学校経営計画について） （校長より説明） 中期的目標に普通科改革推進事業推進校指定を受けた。教員の働き方改革について。グローバルと進路実現目標は大きく変わらない方向。普通科改革（特色ある普通科）の説明。 （委員）募集は普通科ではない？ 校長・令和 8 年度入学生から実施。国・府の事業として進んでいる。普通科＋アルファの学びとなる。学校が大きく変わるのではないことを、きちんとアピールしていくことが大事。 （委員）普通科教育を主とする学科として動く予定であるので強化をしていく検討、うまく伝えることが重要。 校長・地域社会のみを強調するより全体像を示したい。授業の中で地域との連携も模索中。 （進路結果について） 進路・推薦による進学は全国的に増加傾向。近年行き先の大学が限定的になってきている自宅から通う大学、2 時間程度の通学を嫌う傾向、結果、大阪市内、京都市、神戸方面の順。 （各推進する事業について） 首席・LGIGA 本年度 2 年目普通教室に新たな PJ が配備、活用した授業を展開。本校の取組を評価され、府下全校に配備拡大。本年度は遠隔授業についての研究を進める。1 人 1 台端末の活用が柱になる。全ての学校ができるものを発信するのが本校の使命。7 月 17 日に古典と公共で公開授業実施予定。遠隔地配信の授業を実施。授業風景を配信する予定。 （委員）不登校の生徒も単位認定されるようになるのか？ 学校・同時双方向なら認定される方向で進む可能性。学習の保証も重要だが、登校して学校生活を送ることも重要。 （委員）対面授業の在り方も含め、今後検討されていくのでは。見守っていく （教員の ICT 活用について） 首席・PJ 等の使用について本校は相当高い割合と考える。授業で 2/3 は使っているのでは。Wifi の不具合は昨年の反省を活かして人数調整等おこなっている。 （委員）投影内容をそのまま配信することは可能か？ 学校・技術的に可能であるが、研究している。画面共有も便利であるが課題もある。 （委員）現場が大きく変わっているが AI などの話は？ 学校・現在色々模索している。生徒が CHAT GPT 等を使っていないが、今後の検討課題。 〔第 2 回（11 月 15 日）〕 生徒指導部・・・懲戒件数について今年はまだ無し。定員割れした学年への懸念があったが狭山生らしい生徒がきてくれている。遅刻の増加傾向は気になる。 生徒会・文化祭 2100 名超える来客。土日開催。来場者対応：友人はチケット制、19 歳以上の近隣の方に入場いただく。大きなトラブルなし。生徒会に企画の掘り起こしを指導中。金券が不足するトラブルあり、電子マネーなどの案も。 来週自主的に共同募金を実施。 （各事業について） 首席・L-GIGA 事業 2 年目 7 月、10 月、11 月公開。12 月 25 日研究フォーラムで発表予定。 （委員）南中もスマートスクールモデル校となっているが ICT の活用の底上げをしてきた。実際の高校の活用率は？ 学校・プロジェクターはほぼ全員利用。HR など話し合いの場で活用は進んでいる。クラスルームでの連絡活用が進んでいる。業務改善としてスプレッドシートを活用した欠席連絡によって朝の電話件数は減っている。 （普通科改革推進事業について） 6 時間の探究を含む週 32 単位での新カリキュラム策定予定。先進校視察実施。大学の探究型入試への対応も視野に入れる。最終目標として国公立での進路実現を進めていきたい。 （委員）部活動の時間が減るのではないかという懸念はないのか 首席・議論を進めていく中で進路実現のために減単位は逆行すると考えている （委員）国公立と私立で探究型選抜の質が違う。狭山が狙っていくこともよいのでは。
肯定的回答の比率	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6																							
授業の工夫	83.9	83.6	89.3	94.3	92.4	92.0																							
期待に応える授業	77.5	78.7	82.6	89.3	88.6	88.3																							
カリキュラム	77.7	81.2	86.6	87.7	89.1	90.0																							

府立狭山高等学校

社会人になった時に大きな財産になるので、引き続き、加入率を上げることと生徒の積極的な取組みが促進するよう注力する。教員向けの「本校では生徒が充実感を得られるように部活動を運営していると思いますか」は 95.4％（＋4.4p）であった。 （４）国際交流 ２つの姉妹校のうち、韓国の景福高校との対面交流は一昨年度末の３月に再開された。一学期末には景福高校からの訪問団を受け入れ、交流及び生徒宅でのホームステイを経験してもらえた。３月には、再び本校の生徒が起伏高校を訪問する予定である。また、オンライン交流も併せて行い、１人１台端末を活用した MEET による交流を行っている。緊張しながらも交流を楽しめたという感想が多かった。また、国際交流に興味をもっている生徒のニーズに応えられるような企画を広げていきたい。もう一つの姉妹校であるオーストラリアの Carey 校との交流は、コロナ禍後の旅行価格高騰の影響もあり、まだ実施できていない。こちらも、来夏に訪問できるよう調整中である。新たな試みとして、今年度は、景福高校と Carey 校と本校との三校でのオンライン交流を初めて実施した。「本校が行っている語学研修等の国際交流事業は魅力があると思いますか」は 80.9％（＋1.1p）であった。 （５）地域ボランティア 今年度も「狭山池まつり」が開催され、多くの文化部の参加、運動部の準備等の参加によって盛況となった。また、１月の大阪狭山市公民館の新春イベントに本校文化部が参加するなど、連携の機会を増やすことができた。一昨年度に大阪狭山市との連携協定を締結して以来、更なる交流が創出されている。本年度も総合（家庭）の授業での手話講座と保育所訪問、更に学校内での園児との交流が実現し、生徒にとっても良い経験となった。狭山池の清掃活動（クリーンアクション）は、部活動の生徒を中心に年間通じて参加している。今年度も生徒会役員等部活動以外の生徒の参加もあり、地域の実行委員の方に良い取組であるとの言葉をいただいている。「あなたは本校の地域清掃や地域連携活動でボランティア精神が高まったと思いますか」の質問に対する肯定的回答は 75.1％（－1.8p）となっている。大阪狭山市唯一の高等学校であり、今後とも生徒の自主的な地域連携を積極的に支援したい。	進路・探究的な学びを進めていくと自分で学んで気づく生徒が伸びている。探究とは何かについての議論を重ねている。知識技能を深める・資質能力の育成が課題となっている。最終的に自分が能力を高めていく、社会資本の中で狭山が育っていけたら （委員）地域を学ぶということも大事だが、それはエッセンスであって、生徒がやりたいと思うことに地域という財を提供していくことができるかが重要。地域社会のみならず大きくグローバルに考えてもよいのでは。 首席・地域のことに對する問い立てになるようにするために、第４次教育進行計画にあるウェルビーイング的な考え方を示してもよいのではないかと考えている 〔第３回（２月７日）〕 （学校教育自己診断結果について） 生徒・保護者の回答については昨年とほぼ同じく高い評価となっている。教員の回答について昨年とは特徴的な結果となっている。教員の入れ替わりが激しい時期となっており、その中で阿吽の呼吸で行ってきたものについて新たな共通理解を進めていく必要がある。新事業の推進もあり、教員の中で色々考えてもらえている。 （委員）阿吽の呼吸は危険であると考える、若い先生などは黙っているだけで構成員の意識が変わっていないため不満等も出てこないまま仕事に影響が現れる当たり前のことであってもひとつひとつ確認していくことを進めてもらいたい （委員）生徒の肯定的な評価が高くて驚いている、授業改善について具体的なものがあれば教えて欲しい （首席）授業環境の点においては効果的に ICT を活用できているのではないか。また、観点別評価が導入され、主体的な学びを毎回の授業で取り入れ、生徒が授業についてわかりやすいか、という点については全てではないが、生徒と教員の関係性の良さが根底にある。 （人権）授業においても生徒と教員の関係性の良さが見受けられる、狭山高校生の風土と合致しているのではないか。 （委員）肯定的意見をみた場合、学校生活においては積極的な肯定が高いもの、低いものについて見たときに、経年的にみてその増減も細かく分析する必要がある。本当に生徒のよいところを伸ばしているのかを確認する必要がある。 （新普通科事業について） スクールミッションを具現化する新普通科の育成をめざすコア作りを進めている。探究は３年間で６単位、更に選択で２単位受講できるよう計画。国公立大学や難関大学の探究入試にも対応できる学びにしてい （委員）何を売り込んでいくかが重要。増加する探究授業を中学生にどう広報していくのか、ニーズに合うものを把握し、この機会を活かして広報の準備をきちんとしてほしい。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R5 年度値〕	自己評価
Ⅰ 更なる学力向上と進路保障	（１）「主体的・対話的で深い学び」をめざし、「思考力・判断力・表現力」・「主体的に学びに向き合う力」を育成する授業づくりに取り組む。	（１） ア 調べ学習・グループワークを取り入れ、発表、議論・パフォーマンス課題を通じて「思考力・判断力・表現力」を向上させるとともに、「観点別学習評価」についてさらに研究を進める。「観点別学習評価」については、教科で単元計画・評価計画を策定し、ルーブリックなどを共有しながらチームで取り組む。 イ リーディング GIGA ハイスクール指定校として、１人１台端末や導入された最新型プロジェクター等の ICT 機器を活用し、対話的に思考を深め、学び方を協働的に学ぶ授業をめざす。１人１台端末活用のアクションプランを意識し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を進める。 ・授業力向上委員会（教育課程委員会）を中心に授業見学週間、授業力向上研修などの授業力向上のシステムの取り組みを推進する。 リーディング GIGA ハイスクール推進委員会を立ち上げて研究校としての取り組みを推進する。	（１） ア、イ ・生徒向け学校自己診断結果の授業満足度86％以上〔88.6％〕 ・生徒向け学校自己診断結果の授業の工夫度 86％以上〔92.4％〕 ・授業アンケートの教員平均3.4以上〔3.4〕 ・研究校として、最新型プロジェクター等のICT機器を活用し、対話的に思考を深め、学び方を協働的に学ぶ公開研究授業を実施	（１） ア、イ ・授業満足度 88.3％（○） ・授業の工夫度 92.0％（○） ・授業アンケート平均 3.4（○） ・リーディング GIGA ハイスクール授業公開を３回実施（○） 校内授業見学週間、リーディング GIGA ハイスクール公開授業を実施。普通科改革支援事業による探究的な学びの構築も行いながら、授業力向上を進めている。
	（２）第一志望を実現する進路指導を進め、個別指導、家庭学習指導の充実を図ることで、夢がかなう進路保障に結び付ける。	（２） ア 受験用学習教材や模擬テスト、各種外部検定を活用し、３年間を通じた客観的な学力把握とデータに基づく精度の高い受験指導を行う。 イ 早朝、放課後の講習・補習及び長期休暇中の学習イベントにより「わかる・できる」を体感させる。	（２） ア・生徒向け学校自己診断結果カリキュラム満足度 86％以上〔89.1％〕 ・教員向け学校自己診断結果の系統的な進路指導 75％〔87.5％〕 イ・生徒向け学校自己診断結果のキャリア教育満足度 90％以上維持〔93.9％〕	（２） ア ・カリキュラム満足度（生徒）90.0％（○） ・系統的な進路指導（教員）83.3％（○） イ ・キャリア教育満足度（生徒）94.8％（○）

府立狭山高等学校

		ウ 国公立大学・難関私立大学ゼミ（年間 25 回程度）を実施し、難関大学への入試に必要な力を育成する。 スクール・ミッション、ポリシー策定をふまえて、進路実績向上をめざしたカリキュラム、補講習、部活動・行事・広報を含めた方向性を拡大経営会議・運営委が示し、「チーム狭山」として教育活動に取り組む。	ウ・国公立大学・関関同立合格者：延べ 70 人以上 [49 人]	ウ ・国公立大学・関関同立合格者：40 名（△） 生徒の希望進路に応じつつ、系統的な進路指導及び主体的な学びを引き出すカリキュラムマネジメントにより満足度は上がっている。普通科改革推進事業により探究的な学びを深めることで総合型選抜への対応力を高めていくことをめざす。
2 キャリア教育のための環境づくり	（1）夢をえがく力、夢をかなえる力を養成し将来に向かって飛躍できるプログラムを展開する。 （2）互いの違いを認め合う人権尊重意識の向上に取り組む。 （3）学校生活の充実に向けた体制づくりに取り組む。	（1） ア 国際交流（姉妹校連携）や実践的な英語教育を通じて国際感覚・国際コミュニケーション能力を伸ばすとともに、地域連携（大阪狭山市唯一の高校）の取り組みや SDG s をテーマにした協働的探究学習を通して、グローバルセンスとローカルセンスを高めるプログラムを展開する イ 将来の生き方を見据えた「進路」を決定するために必要なプログラムを準備する。 ウ 読書活動を推進する（ビブリオバトルをさらに活性化させ読書の質と量の向上を図る）。 グローバルハイスクール委員会（国際交流部会・地域連携部会）が中心となって、国際交流及び地域連携の取り組みを推進する。総合探究委員会が、高大連携・地域連携による「総合的な探究学習」の 3 年間の計画を示し、グローバルリーダー育成のコアカリキュラムとして推進する。 （2） ア すべての生徒に、基本的人権や人権問題の認識を広め、高い人権意識を育てる。 イ 教職員研修を実施し、教職員の人権意識の向上と人権課題についての理解を深める。 （3） ア 担任、教科、部活動等の生徒情報を集約し、SC・SSW とも連携しながら、教育相談支援委員会のコア会議を定例開催とするなど生徒支援体制を充実させる。特に、長引く感染症の影響が生徒やその家庭に与える影響やヤングケアラーの実態については、高校生活支援カードや日常生活アンケートなどを活用し、早期発見・把握に努め、適切な支援につなげる。 イ 自尊感情を育み、自主性を伸ばし、コミュニケーション能力（リーダーシップとフォロワーシップ）と心優しい人間性を高めるために、部活動、生徒会活動等の活性化を図るとともに、部や生徒会執行部に所属していない生徒に活躍の場を多く与える工夫をする。	（1） アイ ・生徒向け学校自己診断結果の「国際交流の魅力」75% [79.8%] ・生徒向け学校自己診断結果の「ボランティア意識」75% [76.9%] ・狭山池クリーンアクションへの参加人数のべ 400 人 [約 400 人] ウ・ビブリオバトル本大会出場をめざす。[学年単位で実施、本大会には参加せず] （2） ア・生徒向け学校自己診断結果の人権意識 85%以上維持 [88.8%] イ・教職員向け学校自己診断結果の人権への取り組み 70%以上維持 [79.2%] （3） ア・生徒向け学校自己診断結果の教育相談満足度 75%以上維持 [78.6%] ・保護者向け学校自己診断結果の相談体制満足度 75%以上 [78.0%] ・教員向け学校自己診断結果のカウンセリングマインド 85%以上維持 [93.7%] イ 生徒向け学校自己診断結果「学校生活満足度」90%以上維持 [90.8%]	（1） アイ ・「国際交流の魅力」80.9%（○） ・「ボランティア意識」75.1%（○） ・狭山池クリーンアクションへの参加人数のべ 320 人（△） 韓国の姉妹校とは学期に 1 回程度オンライン交流を続けている。夏休みには本校への訪問があり、交流を深めた。また、オーストラリアの姉妹校も含め、3 校でのオンライン交流も始めた。 ウ・ビブリオバトル大会を探究的な学習の一環として行った。（○） （2） ア・人権意識（生徒）87.3%（○） イ・人権への取組み（教員）74.4%（○） 教員向け人権講演会に加えて、フィールドワーク研修も行った。 （3） ア・教育相談満足度（生徒）75.3%（○） ・相談体制満足度（保護者）73.4%（△） ・カウンセリングマインド（教員）81.3%（△） イ・学校生活満足度（生徒）91.7%（○）
3 学校改革に向けての体制づくり	（1）教職員全員が参加する「チームさやま」体制を発展させる。	（1） ア 教職員の人権意識を高め、いじめ・体罰・ハラスメント「0」を継続するために教職員研修を実施するとともに、組織的な対応を推進する。加えて、地震・台風等の自然災害、インフルエンザ等の感染症、食物アレルギー、熱中症等、生徒の安全や健康に関する情報の共有及び対応力向上に資する教職員研修を行う。	（1） ア・生徒向け学校自己診断結果の「いじめへの対応」85%以上維持 [89.9%] ・教職員向け学校自己診断結果の危機管理 75%以上[73.4%] ・年 2 回の防災訓練実施 [2 回]	（1） ア・「いじめへの対応」（生徒）90.3%（○） ・危機管理（教職員）62.5%（△） ・防災訓練実施 2 回（○）

府立狭山高等学校

	(2) 学校を取り巻く関係団体（PTA、同窓会、小中学校、後援会、地域行政、地域住民）との関係強化と広報・情報発信に取り組む。	イ コロナ禍での教職員の業務の増加をふまえ、さらなる「働き方改革」を推進し、校務の精査と教職員の負担軽減、職務の平準化を図る。 ウ 超過勤務の削減及び各種休暇の計画的取得を推進する。 部活動指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。 (2) ア 中高連携として、中学校との授業交流・クラブ交流を実施し、教育内容の充実につなげるとともに広報・情報発信に取り組む。 イ 「文化部フェスタ」「狭山カップ」等の実施により地域の中学生や市民の方々に狭山高校の魅力を発信し学校と地域の交流を深める。	・生徒の健康・安全予防に関する職員研修を年3回実施する。[3回] イ・教職員向け学校自己診断結果の勤務の充実度85%以上 [90.2%] ウ・教職員一人あたりの超過勤務時間数で前年度より5%削減をめざす [R5：33時間48分] (2) ア 本校の授業見学週間や地元中学校の公開授業での交流を実施。 イ 「文化部フェスタ」の実施やクラブ交流として「狭山カップ」を実施。	・生徒の健康・安全予防に関する職員研修3回(○) イ・勤務の充実度（教職員）84.8%（○） ウ・教職員一人あたりの超過勤務時間数（3時間17分）(△) (2) ア・体育祭、文化祭でのコラボ企画、大阪狭山市小中学校の土曜参観日企画「子ども未来フォーラム」への参画など、交流の場を広げられた。(○) イ・大阪狭山市公民館の新春子どもまつり、市の防災フェスタ等への文化部の参画、運動部による「狭山カップ」の開催等、地域との交流の機会を生かした。(○)
--	--	---	--	---